

調 査 要 領

- 1 . 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
- 2 . 調査時点 平成 2 5 年 6 月 1 日
- 3 . 調査期間 平成 2 5 年 4 ~ 6 月期
- 4 . 調査対象企業数 3 9 6 企業 (うち回答企業数 1 6 3 企業)

5 . 調査対象業種

建設業 (回答企業数 1 6 企業)

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

商業・サービス業 (回答企業数 8 1 企業)

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

製造業

機械金属関連業 (回答企業数 3 1 企業)

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業 (回答企業数 3 5 企業)

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Indx) の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス (+) となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス () となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

[業況D I]

今期の業況D Iは、全体で - 3 0。前期 (- 3 0) と同ポイントであった。また前年同期 (- 3 5) 比では5ポイントのプラスとなった。

業種別では、**建設業** - 1 9 (前期比 - 3 9、前年同期比 + 3 1)、**商業・サービス業** - 4 5 (前期比 + 1 2、前年同期比 + 4)、**機械金属製造業** + 7 (前期比 - 2、前年同期比 - 4)、**繊維製造業** - 3 3 (前期比 - 2、前年同期比 - 1) となった。

[採算D I]

今期の採算D Iは全体で - 3 2。前期 (- 4 0) と比べると8ポイントのプラス、前年同期 (- 3 3) と比べると1ポイントのプラスとなった。

業種別では、**建設業** - 2 5 (前期比 - 1 8、前年同期比 + 3 6)、**商業・サービス業** - 4 8 (前期比 + 1 8、前年同期比 - 7)、**機械金属製造業** + 7 (前期比 + 1 0、前年同期比 + 1 0)、**繊維製造業** - 3 4 (前期比 - 5、前年同期比 - 5) となっている。

[来期業況D I]

来期の業況予測D Iは全体で - 2 6。前期 (- 2 9) と比べると3ポイントのプラス、前年同期 (- 3 4) 比では8ポイントのプラスであった。

業種別では**建設業** - 2 5ポイント (前期比 - 4 0、前年同期比 + 3 6)、**商業・サービス業** - 3 1ポイント (前期比 + 1 8、前年同期比 + 1 6)、**機械金属製造業** + 4ポイント (前期比 ± 0、前年同期比 + 1 1)、**繊維製造業** - 3 9ポイント (前期比 - 6、前年同期比 - 2 6) となっている。

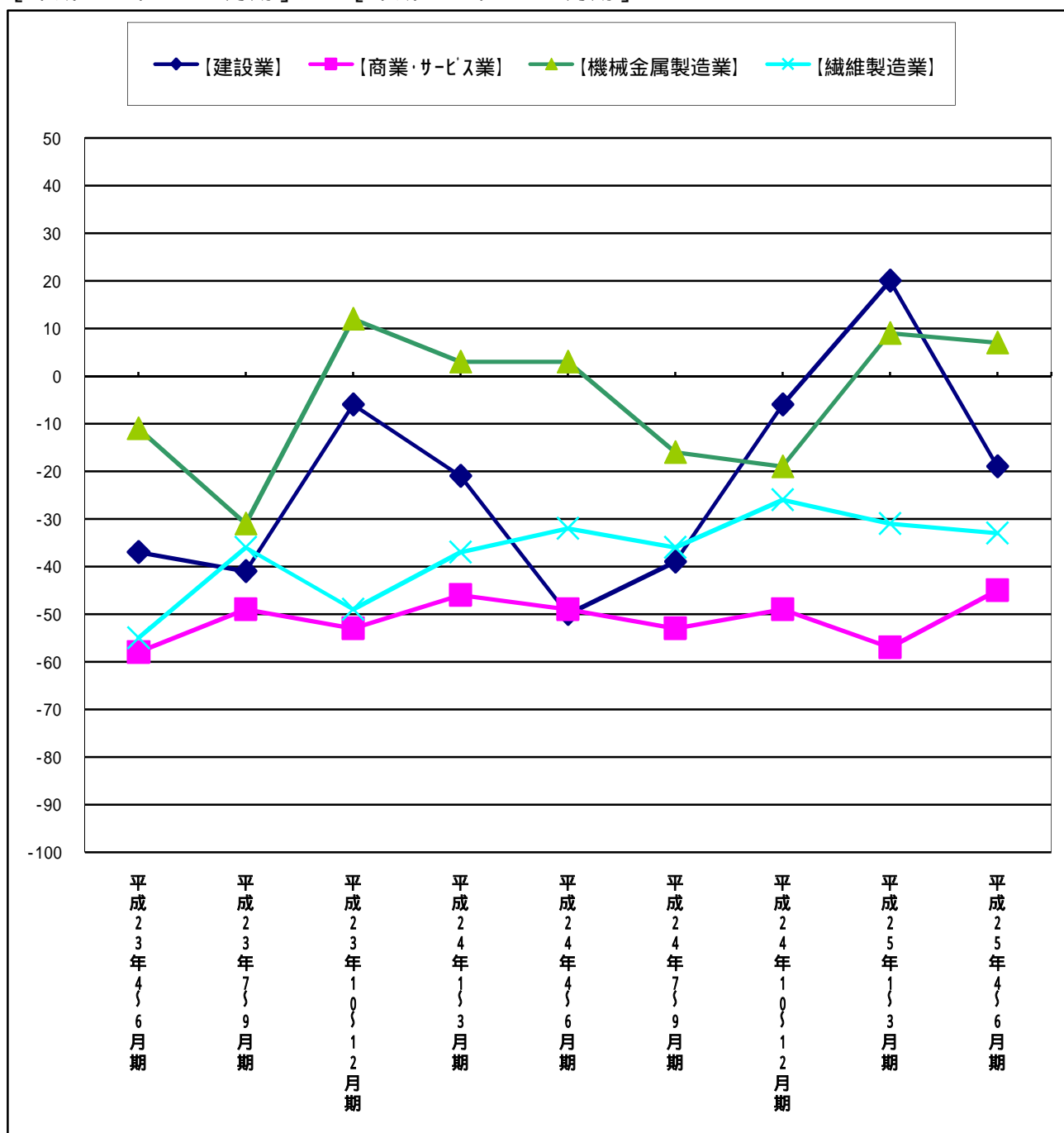
[経営上の問題点]

経営上の問題点としては、**建設業**では「請負単価の低下・上昇難」(2 2 %)「民間需要の停滞」(2 0 %)、**商業・サービス業**では「需要の停滞」(1 9 %)「消費者ニーズの変化への対応」(1 4 %)、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」(2 3 %)「需要の停滞」(1 6 %)、**繊維製造業**では「需要の停滞」(2 6 %)「製品単価の低下・上昇難」(2 1 %) となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成23年4～6月期	-37	-58	-11	-55
平成23年7～9月期	-41	-49	-31	-36
平成23年10～12月期	-6	-53	12	-49
平成24年1～3月期	-21	-46	3	-37
平成24年4～6月期	-50	-49	3	-32
平成24年7～9月期	-39	-53	-16	-36
平成24年10～12月期	-6	-49	-19	-26
平成25年1～3月期	20	-57	9	-31
平成25年4～6月期	-19	-45	7	-33

[平成23年4～6月期] から [平成25年4～6月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

今期業況 今期の業況DIは - 19。前期比は - 39、前年同期比は + 31であった。

業種別では建築・大工業〔±0〕、土木業〔±0〕、とび・コンクリート業〔±0〕、その他〔-100〕であった。

来期業況 来期業況予測のDIは - 25。前期比で - 40、前年同期比では + 36ポイントであった。

【商業・サービス業】

今期業況 今期の業況DIは - 45。前期比は + 12、前年同期比は + 4ポイントであった。

業種別では、卸売業〔±0〕、小売業〔-49〕、飲食業〔-25〕、サービス業では〔-63〕となっている。

来期業況 来期業況予測のDIは - 31。前期比 + 18、前年同期比では + 16ポイントとなった。

【機械金属製造業】

今期業況 今期の業況DIは + 7。前期比では - 2、前年同期比では - 4ポイントであった。

業種別では、鉄鋼業〔+20〕、非鉄金属業〔-100〕、金属製品業〔-20〕、一般機械器具業〔±0〕、電気機械器具業〔-100〕、輸送用機械器具業〔±0〕、精密機械器具業〔+33〕、プラスチック製造業〔+50〕、その他〔±0〕となっている。

来期業況 来期業況予測のDIは + 4。前期比 ± 0、前年同期比 + 11ポイントとなった。

【繊維製造業】

今期業況 今期の業況DIは - 33。前期比では - 2、前年同期比では - 1ポイントであった。

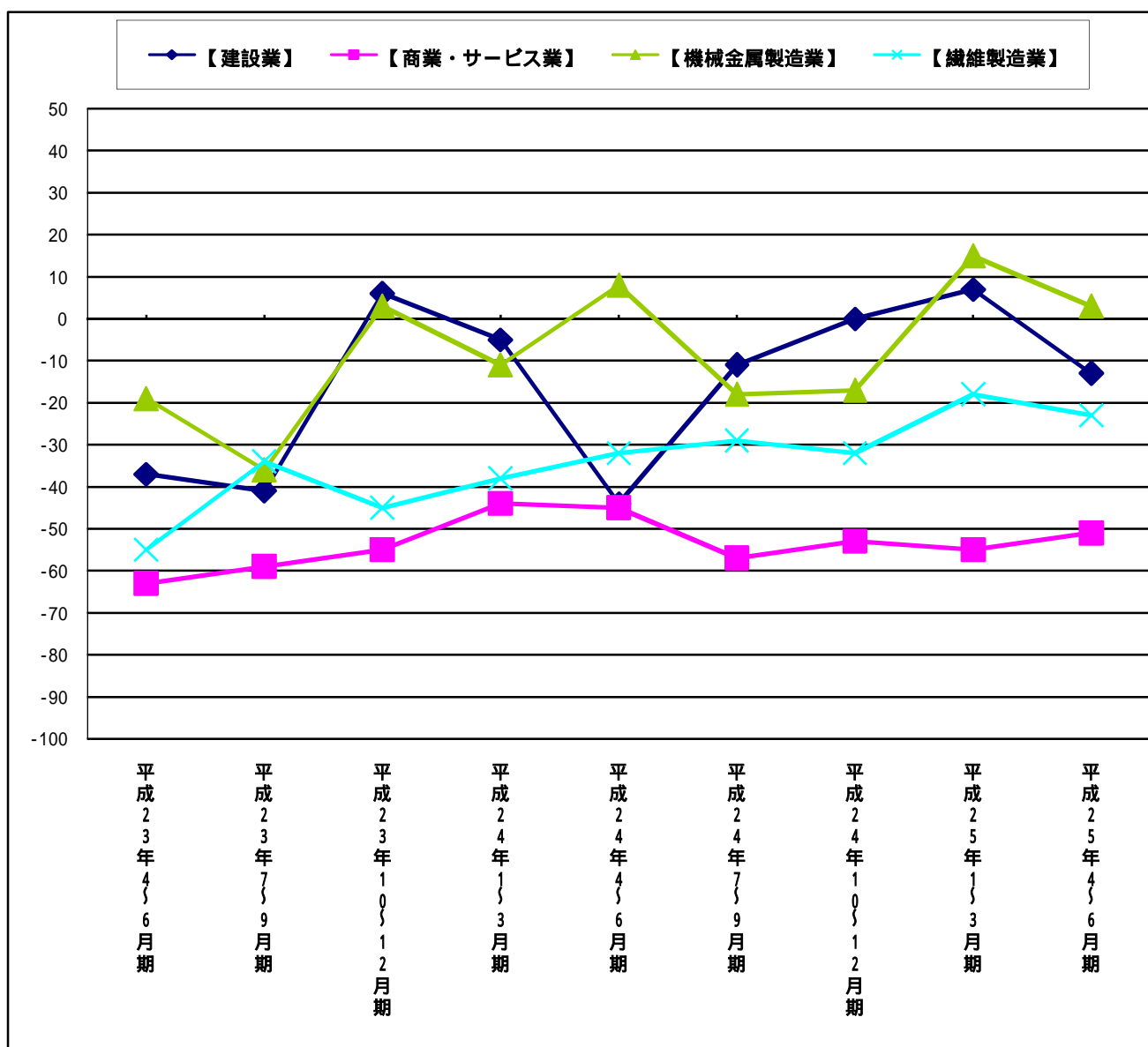
業種別では、撚糸業〔±0〕、織物業〔-9〕、染色整理業〔-40〕、ニット・メリヤス業〔-100〕、レース業〔-100〕、縫製業〔-60〕、刺繍業〔-20〕となっている。

来期業況 来期業況予測のDIは - 39。前期比 - 6、前年同期比 - 26ポイントとなった。

売上額（完成工事額）DIの推移

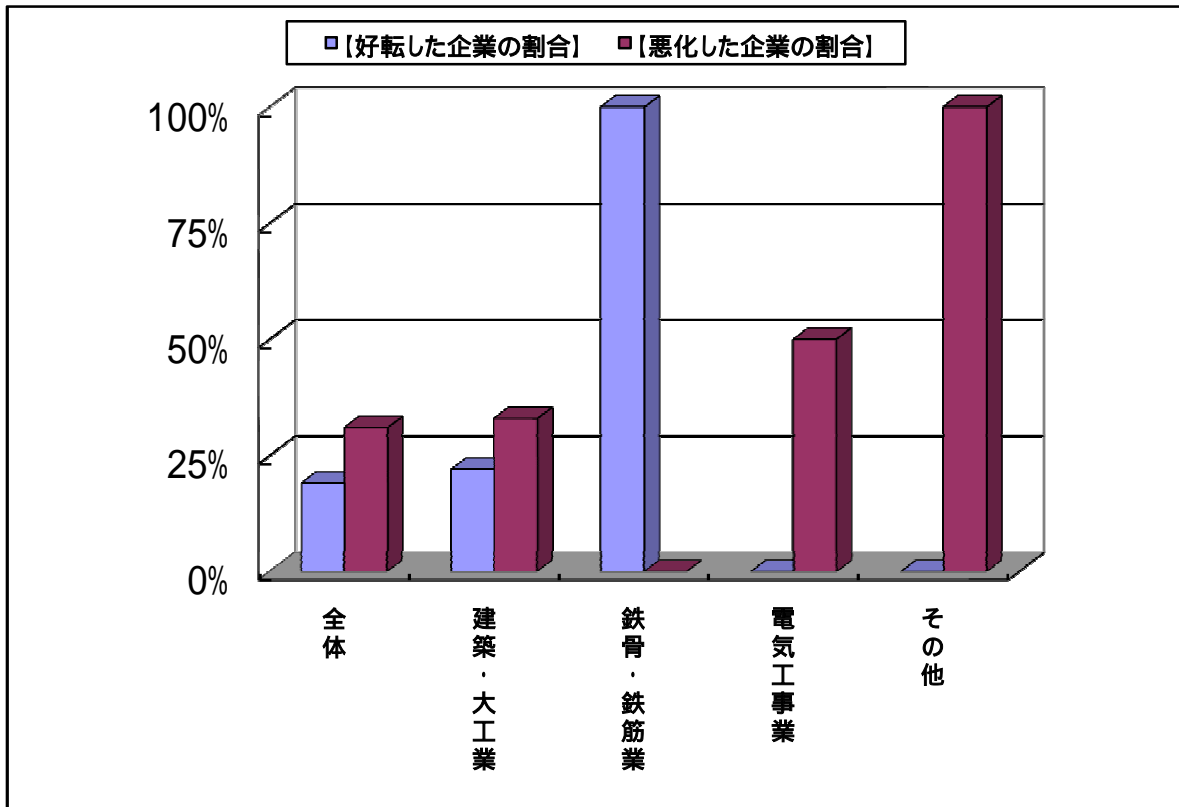
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成23年4～6月期	-37	-63	-19	-55
平成23年7～9月期	-41	-59	-36	-34
平成23年10～12月期	6	-55	3	-45
平成24年1～3月期	-5	-44	-11	-38
平成24年4～6月期	-44	-45	8	-32
平成24年7～9月期	-11	-57	-18	-29
平成24年10～12月期	±0	-53	-17	-32
平成25年1～3月期	7	-55	15	-18
平成25年4～6月期	-13	-51	3	-23

[平成23年4～6月期] から [平成25年4～6月期]

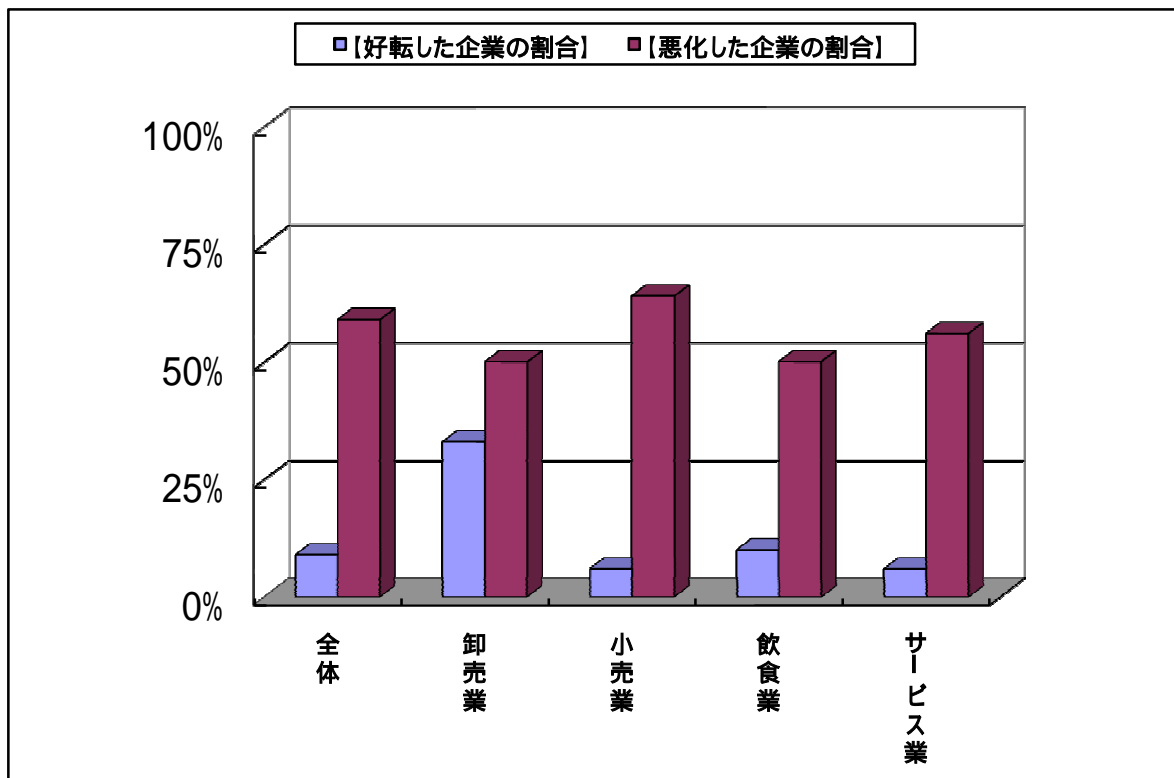


業種別売上額（完成工事額）の状況 前年同期比

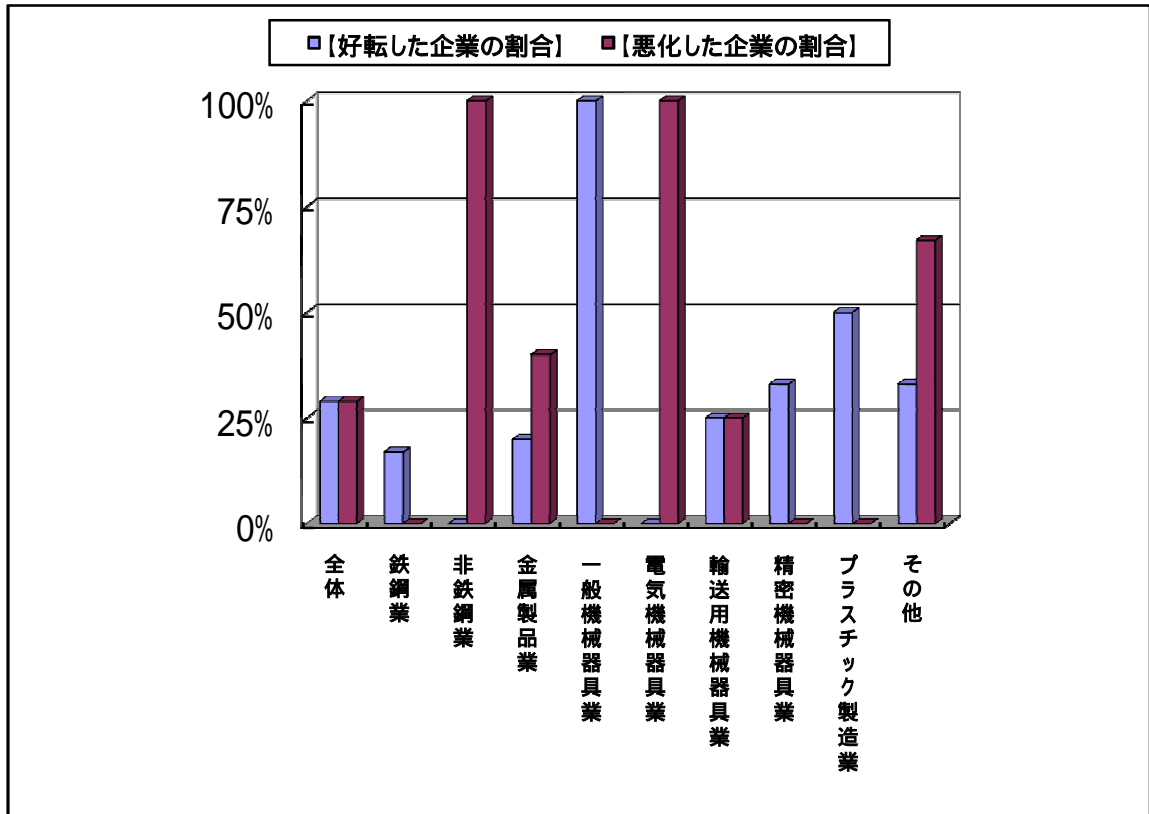
【建設業】



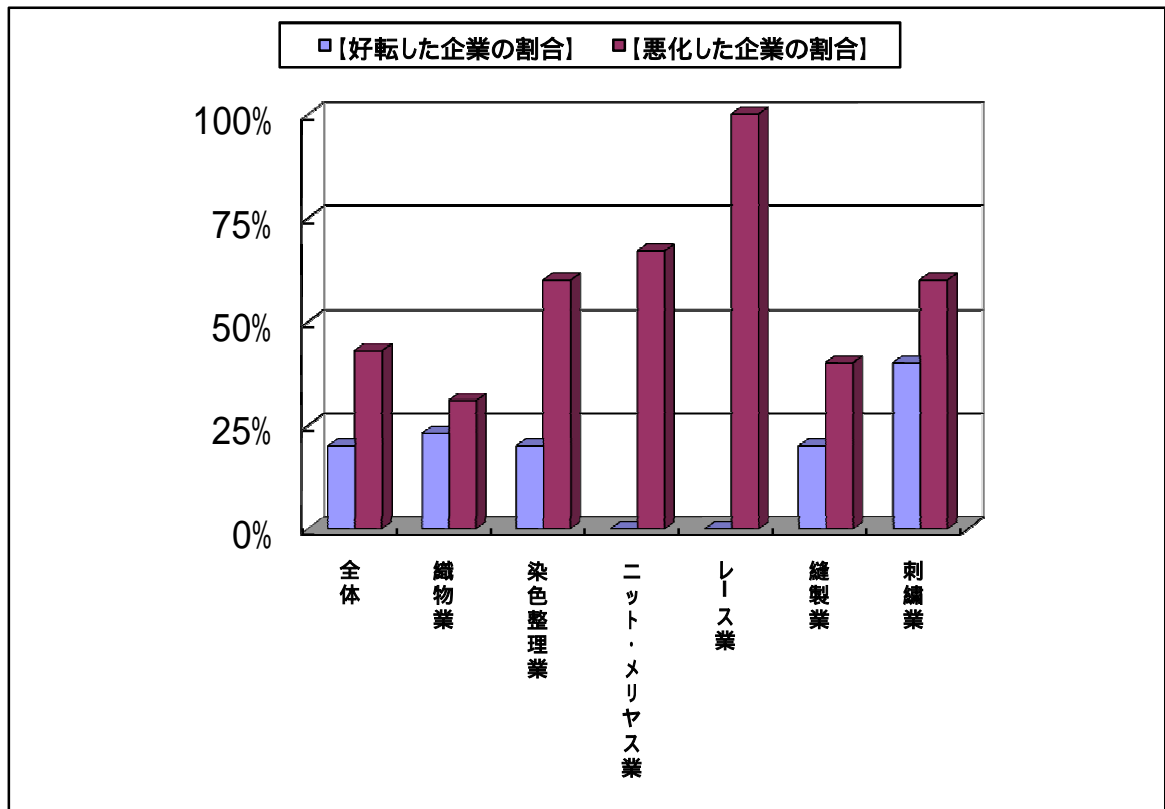
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



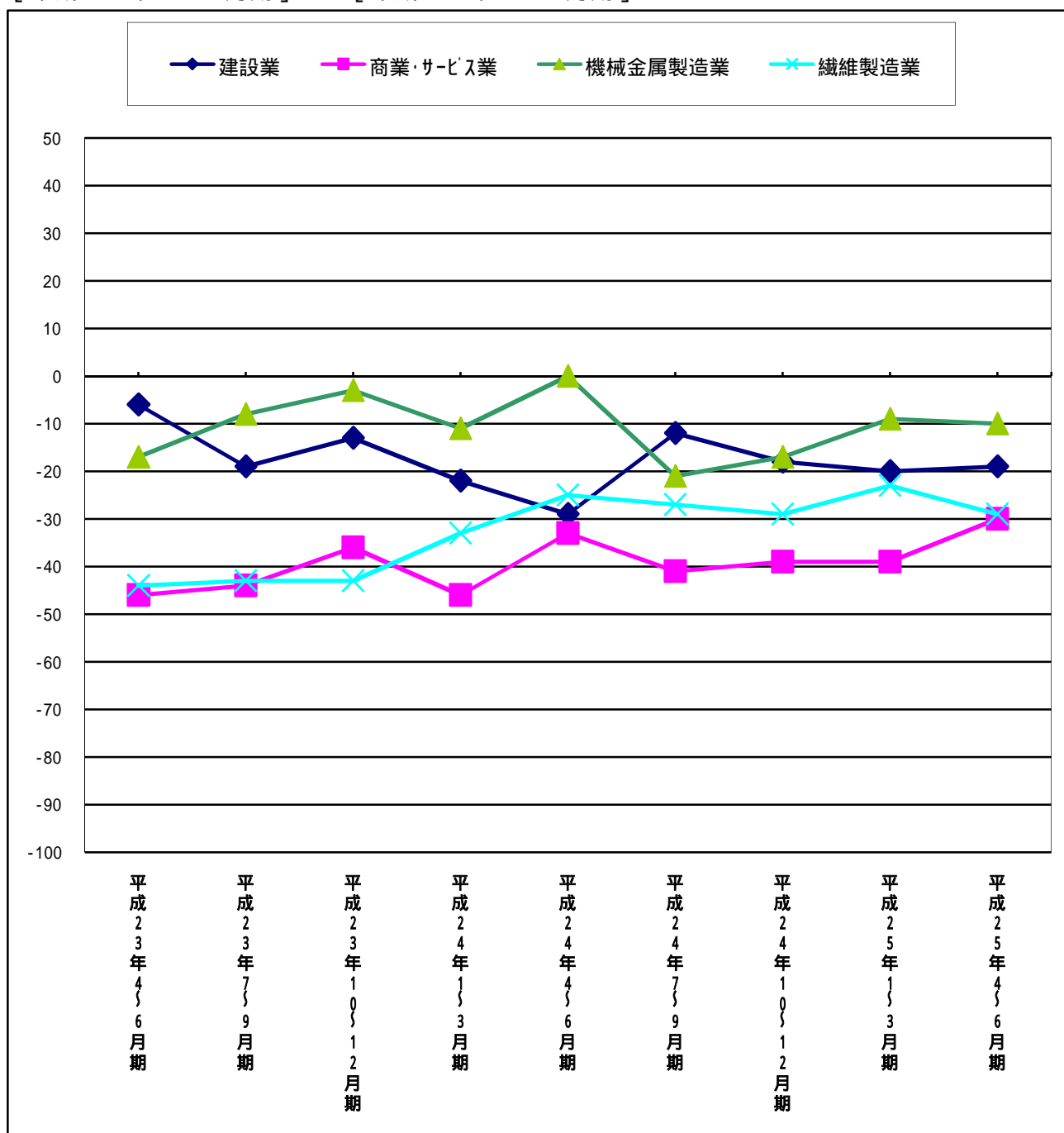
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成23年4～6月期	-6	-46	-17	-44
平成23年7～9月期	-19	-44	-8	-43
平成23年10～12月期	-13	-36	-3	-43
平成24年1～3月期	-22	-46	-11	-33
平成24年4～6月期	-29	-33	0	-25
平成24年7～9月期	-12	-41	-21	-27
平成24年10～12月期	-18	-39	-17	-29
平成25年1～3月期	-20	-39	-9	-23
平成25年4～6月期	-19	-30	-10	-29

[平成23年4～6月期] から [平成25年4～6月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	請負単価の低下・上昇難 21.7	民間需要の停滞 19.6	材料価格の上昇 8.7	熟練技術者の確保難 8.7	下請単価の上昇 8.7
前期	2位 11.4	1位 13.6	2位 11.4	2位 11.4	6位 6.8
前年同期	4位 12.2	1位 22.4	6位 6.1	5位 8.4	0.0
商業・サービス業	需要の停滞 19.3	消費者ニーズの変化への対応 14.2	購買力の他地域への流出 10.4	販売単価の低下・上昇難 9.9	材料等仕入単価の上昇 9.0
前期	1位 22.0	2位 14.6	4位 12.7	3位 13.7	6位 5.9
前年同期	1位 22.1	3位 13.5	2位 15.3	5位 8.6	7位 4.5
機械金属製造業	製品単価の低下・上昇難 23.0	需要の停滞 18.4	原材料価格の上昇 14.8	生産設備の不足・老朽化 11.5	製品ニーズの変化への対応 8.2
前期	1位 25.0	2位 19.8	4位 7.9	3位 14.5	4位 6.6
前年同期	1位 25.9	2位 21.0	4位 9.9	3位 12.1	5位 6.2
繊維工業製造業	需要の停滞 26.4	製品単価の低下・上昇難 20.9	製品ニーズの変化への対応 12.1	原材料価格の上昇 11.0	生産設備の不足・老朽化 7.7
前期	1位 24.1	2位 21.8	3位 16.1	4位 8.0	4位 8.0
前年同期	1位 25.0	2位 18.8	3位 12.5	6位 4.2	5位 7.3

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成23年4～6月期	-6	-7	-18	-10
平成23年7～9月期	0	-15	-8	-22
平成23年10～12月期	20	-11	-13	-13
平成24年1～3月期	6	-3	5	3
平成24年4～6月期	0	-1	0	-9
平成24年7～9月期	-13	-11	-6	-16
平成24年10～12月期	0	-8	-12	-6
平成25年1～3月期	7	-5	16	-6
平成25年4～6月期	6	-11	23	-10

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【商業・サービス業】

- ・近くにコンビニが開店することになり、コンビニは野菜や日配品まで力を入れており24時間営業なので、売上の減少が予想される。
- ・産直販売の増加。
- ・色々な広告や機会を利用して割引等のサービスを実施しても、新しい顧客の増加に繋がらない。割引サービスを利用してくれるのは固定客の人ばかりで、売上増にはならない。客層の拡大方法を考えて色々実施してきたが、縮小気味である。
- ・景気上昇の影響はない。中小企業活性化施策を期待する。
- ・ネット販売を利用する方がかなり急激に増え、価格もろもろ競争が激化してきている。
- ・消費者の他地域への流出で街中が段々さびれてゆく。一軒二軒の努力ではどうにもならない。
- ・昨年12月に民主党政権が崩壊してデフレ不況の原因が削除されたのが景気にとって一番好ましい状況であった。景気好転までもう少し時間がかかると思う。破綻した経済政策からの脱却をすればアベノミクスの効果が出てくると思う。景気はムードが一番であることが円安株高効果で立証された。
- ・売上の減少が止まらず、廃業を常に考えている。
- ・顧客の高齢化。
- ・ネット通販との競合及び対応。
- ・事業主とともにお客様も高齢化が進み、客足が減少している。
- ・販売単価が低下傾向にあること。

【機械金属製造業】

- ・自動車業界の設備投資の方向性が不透明なため、中長期計画が立てづらい。

【繊維製造業】

- ・高年齢化と後継者不足により廃業が相次いでおり、受注要素が足らなくなりつつあり、設備の入替えが出来ない現状。
- ・円安のため原料高で製品単価を上げられない。